

- 平成27年度京都府道路公社が実施した、地域一括発注における好事例・気づきについて事例紹介

【紹介内容】

- ① 判定審査会
- ② 点検要領図の作成
- ③ 点検時の措置（防錆スプレー）
- ④ 劣化、損傷の対比
- ⑤ ゲージ等の設置

①判定審査会）京都府道路公社、京都府本庁職員、道路管理者（土木事務所職員、市町村職員）合同で点検結果について議論する場を設けた



【気づき】



「A事務所でも、同じ事例があり、措置は〇〇を行ったよ」



「B橋は、拡幅工事をしており、その際に舗装を一部補修したよ」



「C橋は、コアを採取したデータがあるよ」
etc

【評価の理由】

- 現在の所属部署に関わらず、工事、管理等の経験者が会に参加したことで、橋梁の状況（建設時、維持工事、調査履歴）を詳細に知ることができた
- 府内の点検結果のレベル（判定区分等）の統一が図れた
- 若手職員の研修の場として活用できた

（③点検時の措置（防錆スプレー））鉄筋が露出している部分に、透明な防錆剤保護を行った



【気づき】



近接のついでに、錆止めを行う



無色透明のため、腐食部が継続的に監視できる

【評価の理由】

- 点検時に「措置」が実施できる
- 次回の点検時に、腐食の進行が目視できる
- 断面修復と比べて安価である（断面修復が再劣化していることもある）

（④劣化、損傷の対比、分析）過去の調査記録や、同じような条件の橋梁の損傷状態を整理・対比した

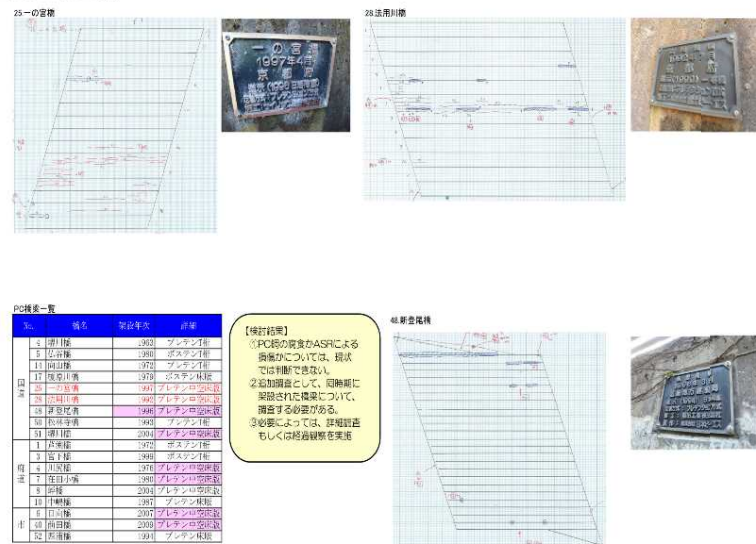
【気づき】

構造形式、架設年代毎にひび割れの状態を集計し考察を行った（ASRの発生傾向等）

過去のひび割れ写真と比較し、損傷の進展を推察



【参考】ASRの可能性のある橋梁



【評価の理由】

- 点検結果を同年代の構造形式毎に集計することで、他の橋の健全性判定の参考となる
- ひび割れ等が進展しているかどうか把握できる

（⑤ゲージ等の設置） ひび割れ幅の計測器を設置した事例



【気づき】



ひび割れの進展目安としてゲージを設置した



「こんなものがあるんだ！」

【評価の理由】

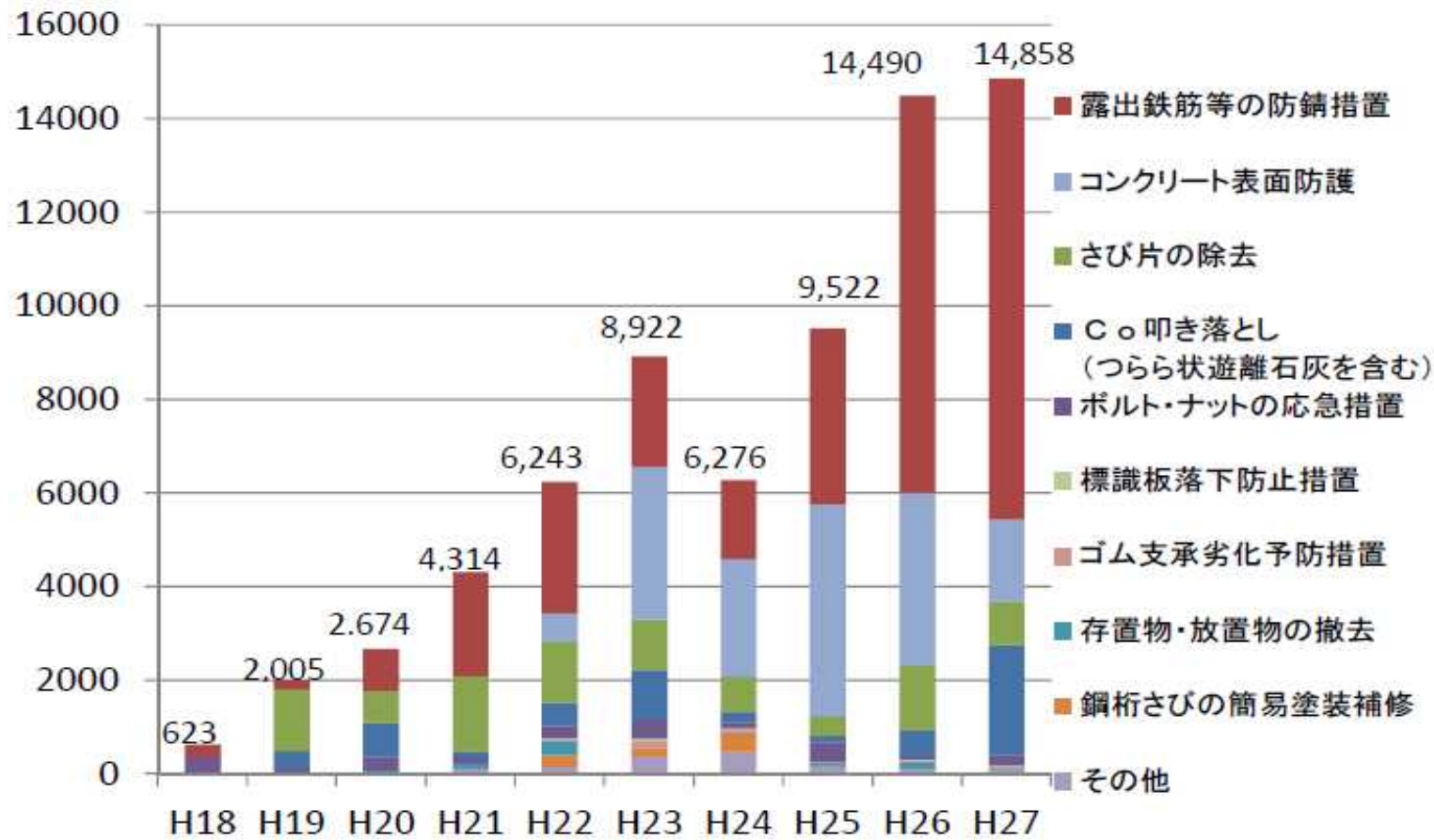
- ひび割れの経年進行を把握することができる
- 管理者が知らなかった技術(商品)を試せた
- 現場での工夫が見られた

阪神高速道路における 点検時応急措置の状況

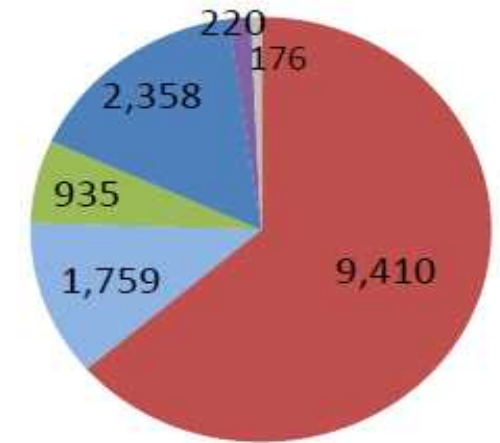
平成28年6月29日

阪神高速道路株式会社

- 定期点検は構造物に近接できる大きなチャンス
- 年間1.5万件にも昇る点検時応急措置を推進

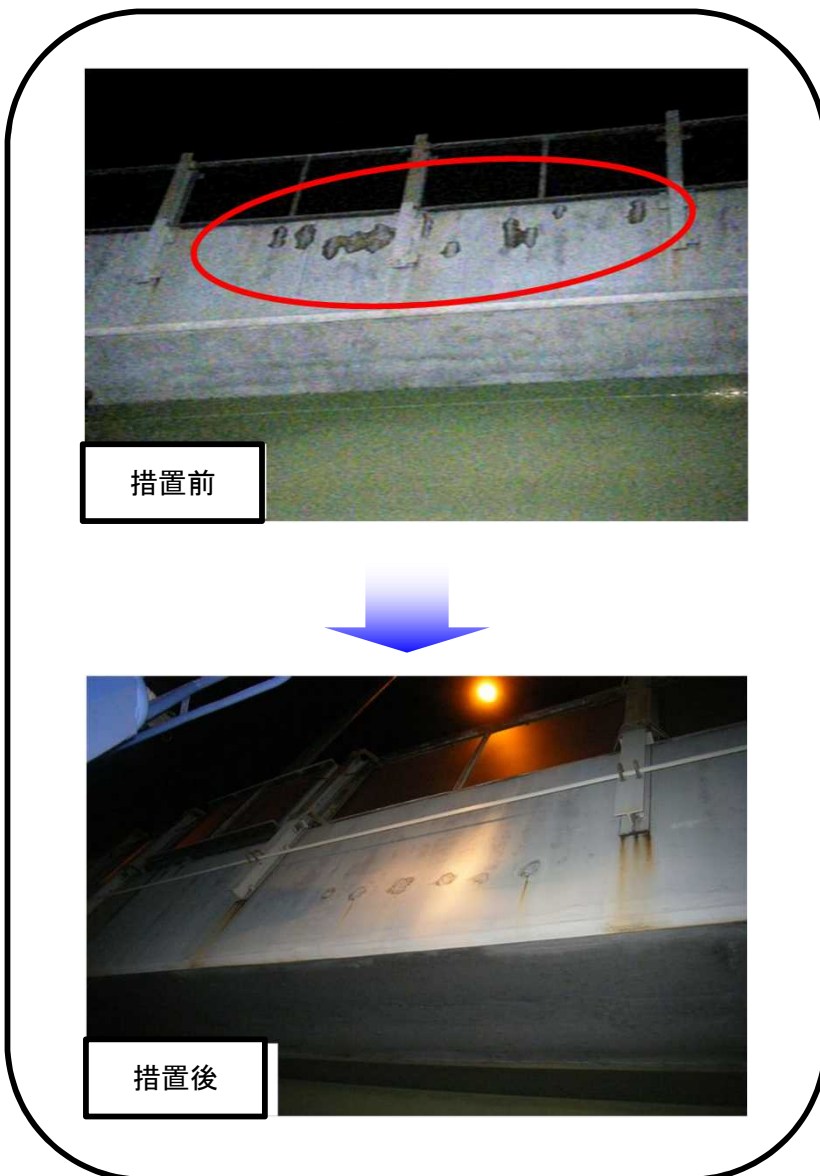


＜実績の推移＞

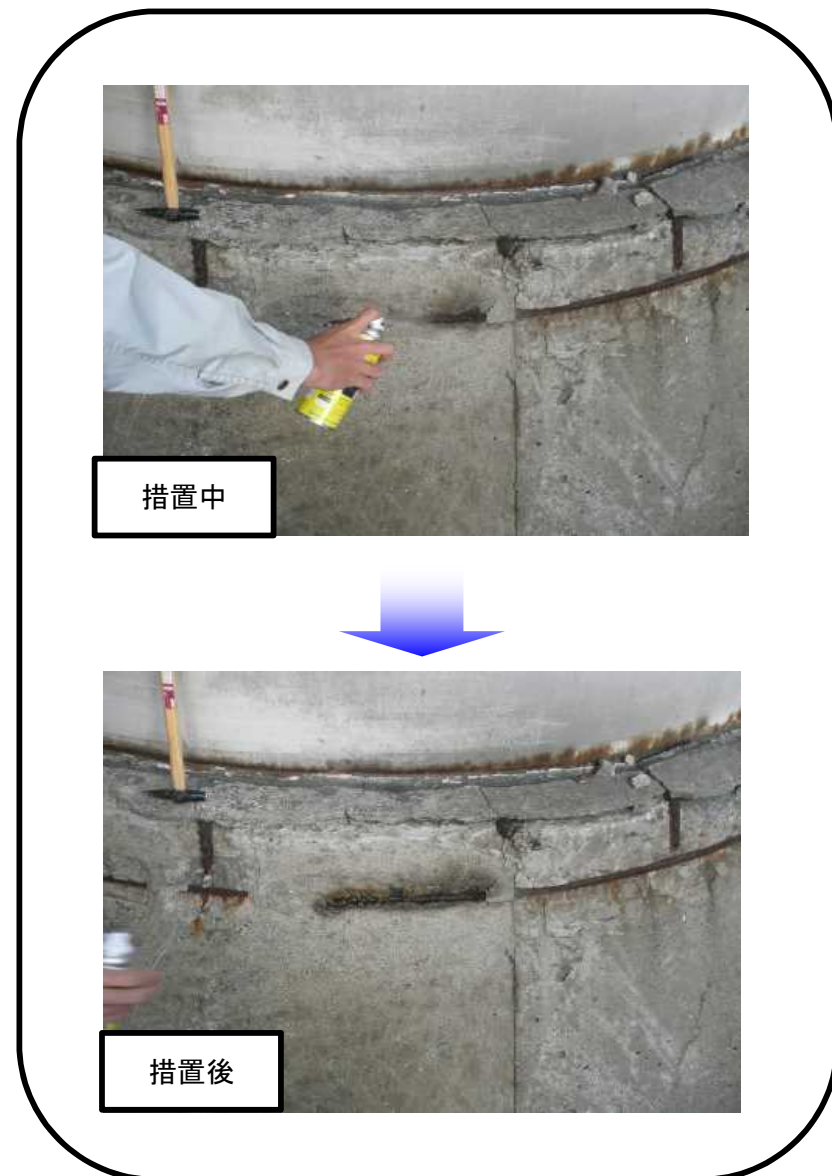


＜平成27年度実績＞

①露出鉄筋等に対する防錆措置



②コンクリートはく離に対する表面防護

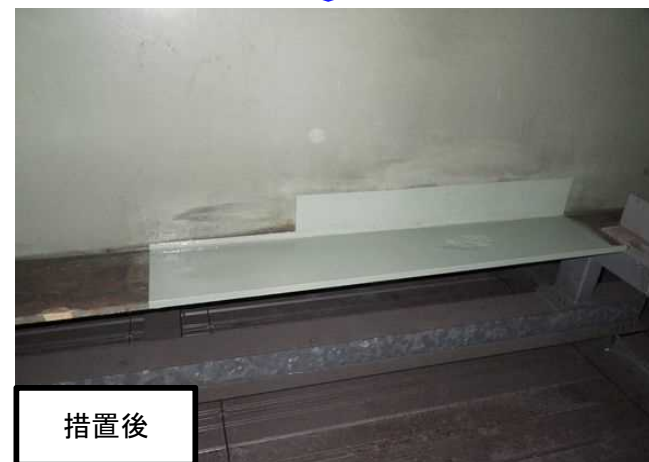


③ 浮きさび除去・簡易塗装

浮きさび除去

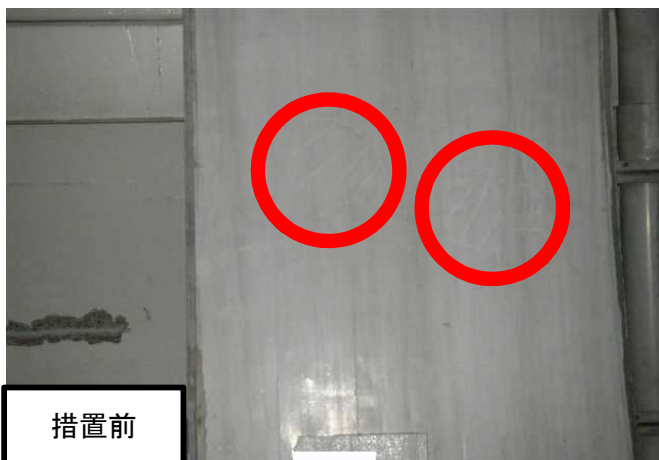


簡易塗装



④コンクリート浮きさび除去・簡易塗装

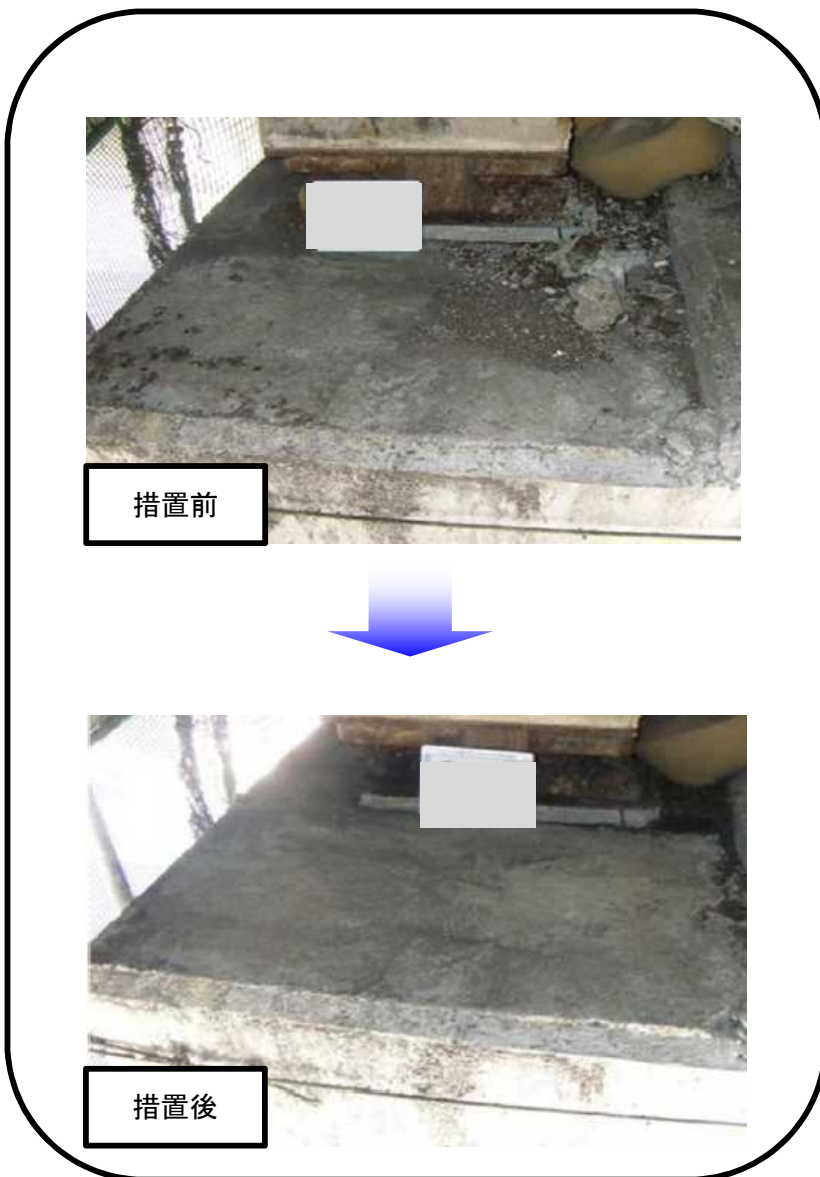
浮きさび除去



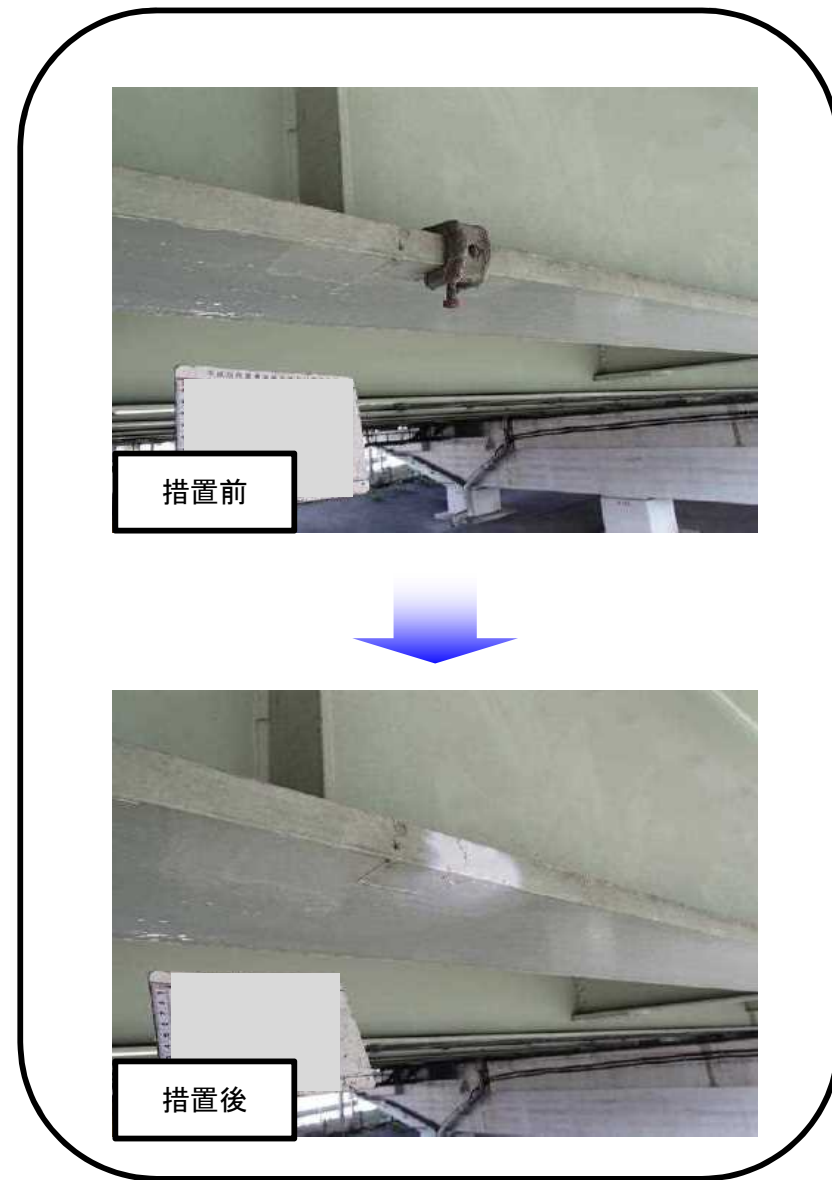
遊離石灰(つらら)除去



⑤ はり上清掃



⑥ 存置物撤去

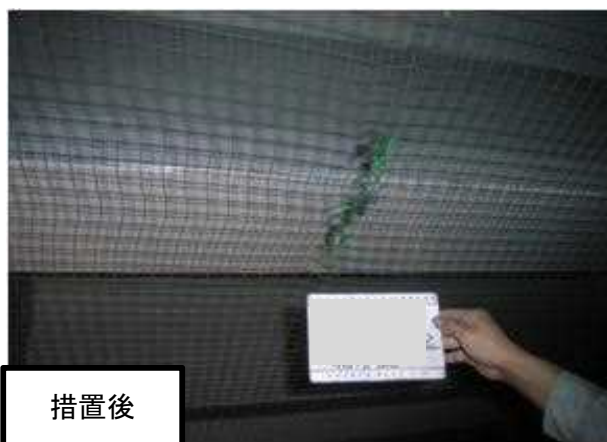


⑦ その他の応急措置

ボルトの増し締め



防鳩ネット補修



⑧ その他の措置

ゴム支承劣化予防措置



支承注油

